



機械化できない
工程を効率化



導入事例

Case Study
Interview

宮坂醸造株式会社様

[製造業（醸造）]



人の手による繊細な作業にこそ、効果を発揮
宮坂醸造が語る「伝統産業ゆえの課題と苦勞」

POINT

- ポイント -

- 18kgのと瓶を1日30本運搬。仕事終わりは動けなくなることも
- 機械化できない工程に。つきこし作りの最終兵器
- 道具の活用で、伝統産業を年齢・性別の垣根を超えた職場に

— 導入された経緯を教えてください。

私自身、腰痛持ちで普段の力仕事に不安を感じていました。病院に通ったりコルセットを着けてみたりと、一時的な対策をしながら仕事をしていました。そんな中、腰への負荷を軽減するものはないかと探している中で、マッスルスーツを見つけました。会社への導入申請をする際、現場の負担をなるべく軽減するのは企業の責務、こうした取り組みは企業のイメージアップにつながる、などの内容を盛り込み提案が通った形です。

— 職場ではどんな課題があったのでしょうか？

当社では特別な技術を用いた突醒(つきこし)というお酒を作っていますが、この製造が始まると18kgの酒の入ったと瓶をだいたい1日30本、人の手で慎重に運びます。この業務が一番肉体的にも精神的にもきつく、この作業を終えた日は、動けなくなることも。その他原料を混ぜる榎入れ(かいいれ)や300kgの米を中腰で床に広げる麴造りもきつい仕事になるので、1日を通して腰への負荷は相当かかっていると思います。

— 実際に導入されて、どのような効果がありましたか？

一番最初に使ったときは「すごいのがきた」という感想でした(笑)。これは実際に着ないとわからない効果です。「コルセットと何が違うんだ?」と疑問に思っている従業員も多かったですが、装着してみると、全員が効果を実感していました。実際現場で使ってみると、これまで休み休みに行っていた作業も持続して行えるようになり、結果時間の効率化も図れています。1日の疲れも軽減したように感じます。また、多くのリスクを考慮された設計は本当にありがたいです。防水、軽い、せまい隙間にも入って作業ができる。製造現場にはぴったりだと思います。これは電動のものでは実現できません。

— 今後、どのように活用していきたいですか？

醸造に対する肉体労働のイメージは否めない部分があります。しかし、マッスルスーツのようなサポート器具を積極的に導入することで、女性や年輩の方でも十分にできる仕事だと思えます。年齢や性別に関係なく、継続的に伝統作業の担い手が広がるきっかけになるのではないのでしょうか。私自身のことで言うと、酒造りだけでなく体を動かす他の業務にも使ってみようと思っているので、これまでおっくうになっていた作業全般にチャレンジでき、業務の幅が広がると考えています!

製造業 での主な マッスルスーツ活躍シーン

1. 中腰で行う機器の洗浄
2. 中腰で行う機器のメンテナンス
3. 原料の運搬
4. 工場・事務所回りの清掃(雪かき、雑草取りなど)

Interviewee



宮坂醸造株式会社 浅木様